

まらり 看護学生

2025年 10 11 月号



- 02・03 私の出会った患者さん — 尾迫 ゆかりさん(尼崎医療生協病院)
- 04 ナースの推し活 — 森岡 萌花さん(神戸協同病院)
- 05 1年目看護師奮闘記 — 加納 花菜さん(共立病院)
- 06 看護学生日記 — R.Tさん(平成淡路看護専門学校)
- 07 ほっとStation
- 08 奨学生交流会報告

私の出会った患者さん



尼崎医療生協病院
緩和ケア病棟
尾迫 ゆかりさん



【患者さん紹介】
70代の男性/胃がん末期
吐血や下血、痛みなどの症状コントロールが必要。さらに奥様は、脳性麻痺の息子の介護もあり自宅での看取りは困難。緩和ケアでの看取りを希望され入院。

はじめに

私は、緩和ケア病棟で働く20年目の看護師です。緩和ケア病棟は、癌などの患者さんの身体的、精神的な苦痛を和らげ、残された時間をその人らしく送れるようにサポートする病棟です。みなさんは、緩和ケア病棟と聞いて、どんな場所を思い浮かべますか？死と向き合うのは少し怖い、看護師として辛い場所と感じてしまう人もいるのではないのでしょうか？今回は、私が出会った患者さん、ご家族さんのお話をさせていただきます。病の中で生きる人と、私がどう向き合ったのかを是非、聞いてください。

出会い

Aさんは、胃がん末期と診断され、自宅で療養されていました。しかし、ベッドから起き上がることも困難となり、トイレに行くこともできなくなり、少量のアイスを食べるのがやっとな状況となりました。心窩部の張りに伴う痛みと、吐血、下血に伴う貧血による全身倦怠感に、いよいよ自宅での生活も不安となり、緩和ケア病棟へ入院されました。

苦痛を緩和しよう

緩和ケア病棟には医師・看護師・心理士・セラピスト・栄養士・ケースワーカー・ボランティアなど様々なコメディカルが働いています。

痛みの緩和は、医師の指示にてモルヒネ投与が開始されました。また、貧血に伴う全身倦怠感とともに呼

吸苦もあり、酸素投与も開始されました。痛みや体の怠さで夜間も眠れなかったため、夜間は休めるように鎮静剤の投与が開始されました。痛みも緩和され、夜間も休めるようになり、日中は家族の面会時に穏やかに会話する時間をもつことができました。

本当に辛いときには、人は何もできません。ただ、生きて痛みが和らぐのをじっと待つ、そんな中で、不安や悲しみ負の感情が巡るのだと思います。その人らしく生きるには、苦痛を一刻も早く緩和することが必要です。

残された時間をどう生きる

Aさんや家族さんの希望を聞くことは、日々の関わりが深い看護師や心理士が中心になって行うことが多いです。Aさんは、会社経営者であり、財産贈与や会社の引継ぎなどをしたいと希望されていました。夜間は寝たいが、昼間は起きて必要な手続きをする時間が欲しいと考えておられました。痛みが緩和できたこと、夜間は薬で眠ることで、日中の思考もまとまり、昼間にやるべきことをする時間を持つことができました。

食事を食べたいとのことで、食事も許可されていました。栄養士さんが、胃に負担のかからない食事を準備してくれます。ご家族も吐血や下血のリスクはあるがAさんの「食べたい」という思いを尊重してほしいと希望され、食事を楽しむことができました。

Aさんの支えは、家族でした。脳性麻痺の一人息子さんをとても大事にされ、車いす生活の息子さんの面

会をいつも楽しみにされていました。息子さんが面会時に、家族写真を病室で撮りました。家族写真を写真立てに入れて、Aさんに持っていくと、とても喜ばれ、寝前には必ず写真を「見せて」と看護師に言うようになり、「おやすみ」と挨拶をされていました。

お別れが近づくと、人はできることが一つずつできなくなります。歩くこと、起き上がること、トイレに行くこと、会話をすること、食事をすること、面会に来てくれた好きな人の顔を見ること、一つずつできなくなります。

私はいつも、その人が大事にしていることを一緒に大事にすること、それは最後までできることだと感じています。何もできなくなったと、辛いこともあるでしょう。それでも最後まで寄り添い、その人が大事にしていることを一緒に大事にすること、辛いときに傍にいて伝える。看護師だけではありません。医師も心理士も一緒に、その人が笑顔になることは何かを考えてくれます。辛いときは、自分の事を一緒に考えてくれる人がいることを忘れそうになるのではないのでしょうか？その中で、少しでも希望になればと関わります。

家族の思い

大事な人の余命宣告はとても辛いことです。しかし、知らないことで後悔してほしくないため、家族さんには残された時間がどれくらいあるのかを緩和ケア病棟に入院時に説明します。病状説明は医師が行います。Aさんも予後1か月と入院時に説明されていました。看護師は医師の説明をご家族がどのように受け止めたのか、疑問はないか、不安はないかなど、病状説明後の家族の思いに寄り添います。

Aさんの奥様は、脳性麻痺の息子さんのお世話と夫の看病で疲労もあったでしょう。それでも、しっかり予後を受け止めておられました。夫の希望を聞きながら、息子さんの介護をし、なるべく毎日面会に来られていました。奥様の疲労に配慮し、残された時間を家族が望むように過ごせるように、奥様の気持ちに寄り添えるように関わりました。

お別れの前日は、病棟のクリスマス会でした。Aさん



の意識は朦朧としており、声掛けで開眼はないが、うなずきはある状態でした。クリスマスコンサートの生演奏を家族で聞き、息子さんは終始笑顔でした。息子さんの帰宅時にはAさんは、朦朧としながらも息子さんの手を握り返されていました。夕方には意識レベルがさらに低下し、呼吸も下顎呼吸へと変化し、翌日の未明に奥様が見守られる中、永眠されました。緩和ケア病棟に入院し、51日目のことでした。

Aさんは、クリスマス会をご家族と一緒に過ごし、家族の笑顔を最後まで守り、本当に強い人でした。奥様からは、「クリスマス会に参加するようにすすめてくれてありがとう。家族で過ごせました」との言葉を頂けました。

私たちの思い

生まれるのも一度、死ぬのも一度、そんな人と関わることは本当に尊いことです。当院の緩和ケアは『その人がその人らしく生きることを支える』という目標を掲げています。どうか“どう生きるか”と一緒に考えていきましょう。そんな仲間になってくれることを、心待ちにしています。

ナースの 推し活



神戸協同病院
地域包括ケア病棟
森岡 萌花さん



看護学生のみなさん、こんにちは。みなさんは日々の生活の中で癒しの時間や疲れを癒してくれる推しはありますか？

私は最近可愛い物を集めたり、美味しい食べ物を食べることはまっています。中でもイラストレーターのmikkoさんが描く「mikko characters」というキャラクターに今凄くはまっています。偶然ガチャガチャを見つけて可愛い！と思い好きになったのが始まりだったのですが、今では新商品が出る度に欠かさず情報をチェックする程になりました。

2月には大阪でポップアップショップが開催されていたので、友達と休みを合わせて出向き、1万円以上のグッズを買い込んだりしました。

小さい頃から身近に犬がいる環境で育ち、いつの間にかぬいぐるみなど毛の生えた可愛らしいものが大好きになっていました。最近は世界中で大流行している「ラブブ」というぬいぐるみマスコットもオンラインで購入し、今か今かと届くのを楽しみにしています。

私はインドアな人間なので、休日はほとんど家でだらだらしながら過ごし、時々気が向いた時に外に出る、という生活を学生時代から続けていたのですが、最近になって外に出て美味しい食べ物を食べる事にも興味が出てくるようになりました。

看護師として働いている以上、力仕事はついて回ると、病棟内ではかなり歩くので、日勤の仕事だけでも夕方にはかなりお腹が空きます。更に夜勤明けとなると、途中2時間の仮眠時間と夕食時以外は前日の夕方から朝までカルテを書いたり、オムツ交換や採血、巡視をしたりと働き詰めです。夜勤の時は基本朝ごはんを食べないこともあり、朝の勤務終わりはとにかく空腹感でいっぱいです。空腹を耐えた後の夜勤明けに食べるマクドナルドやケーキは格別です。

高校ではバイトが禁止で、大学に入ってから勉強を優先してバイトをしていなかったのですが、学生時代はお小遣いとお年玉で何とかやりくりをしていました。しかし、社会人として病院で働き始めてからは、毎月数十万の給料が入り、夏と冬にもボーナスがあるので、自分が努力して稼いだお金で好きな物やちょっと贅沢な食事にお金を消費できることに大きな充実感をしています。

社会人として働き始めた時は右も左も分からず不安でいっぱいでしたが、今は毎日素敵な先輩看護師の方々に支えられながら、患者さんからも元気を貰い、毎日楽しく勤務しています。疲れた時は推しを愛で、美味しいご飯を食べて体を労りつつ、これからも楽しく看護師を続けていきたいと思っています。

1年目看護師奮闘記



共立病院
地域包括ケア病棟

加納 花菜

看護師になろうと思ったきっかけ

安定した収入を得たいと考えた時に母親や祖母が看護師をされており私もしてみたいと考えました。

趣味

ゲーム実況をみたりカフェ巡りをすること。

特技

どこでも寝られるところ。

推し

キヨ

休日の過ごし方、ストレス発散方法は？

YouTubeをみたり友達とカラオケに行ったりしています。



共立病院病棟勤務から5か月が過ぎました。今の率直な気持ちを聞かせて下さい。

初めは覚えることに必死で患者さんとの関わり方も悩みながらでしたが、以前よりできることが増えてきて楽しく看護できるようになりました。



5か月が過ぎて出来るようになったことや得意だなと思えることは？

ずっと採血やルート確保が苦手でしたが、できるようになってからは苦手意識が減りました。バルン挿入が得意になりました。



働き始めて嬉しかったことはなんですか？

ありきたりですが、感謝されるとやりがいを感じます。お給料も学生の頃よりはるかに多くもらえて嬉しかったです。



大変に感じる事はなんですか？

スケジュール管理が苦手です。そのため、部屋周りや記録に時間がかかってしまいます。スムーズにできるよう努力していきます。



これまで何か印象に残っている事はありますか？

吸引を初めて見た時驚きました。「そんな奥まで!？」と思ったことが今ではスムーズにできるようになりました。



看護学生

兵庫民医連
奨学生

日記



平成淡路看護専門学校
2年生
R.Tさん

✓看護師をめざしたきっかけ

新型コロナウイルスが流行した当時、私は学生であったため、医療の現場で働くことも、直接的に誰かの力になることもできませんでした。そのときに抱いた無力感から、「医療の現場で誰かの役に立てる仕事したい」という思いが芽生えました。数ある医療職の中でも、看護師は身体的苦痛だけでなく精神的苦痛にも寄り添える点に魅力を感じ、目指すようになりました。

✓趣味

趣味はラクロスというチームスポーツです。中学生から社会人まで幅広い年齢の人とプレーを通して関わり、意見を出し合いながら楽しんでいます。ラクロスをする時間があることで学生生活とのメリハリが生まれ、より充実した日々を過ごせていると感じます。



✓ストレス解消法

私のストレス解消方法はランニングと寝ることです。ランニングでは汗を流すことで爽快感や、変わりゆく景色を楽しむ時間が得られます。睡眠は心身のリセットに繋がるため、しっかり確保することを大切にしています。

奨学生に記事を書いてもらい、通っている学校の紹介や最近の楽しみ、悩みなどを掲載しています!! 学生の皆さんは共感できるところも多いのではないのでしょうか。ぜひ、読者の声で感想や質問もお待ちしております!!



✓私の学校自慢

私が通う学校は自然に囲まれた環境にあるため、落ち着いて勉強に集中できます。また、幅広い年代の人が在籍しており、多様な価値観に触れられるのも魅力の一つです。互いの経験や考えを知ること、自分の視野が広がります。

✓奨学生になって良かったこと

奨学生として、交流会などを通じて他の看護学生や現役の看護師さんと直接お話できる機会があります。現場のリアルな声を聞けることで、学びへのモチベーションが高まります。さらに、経済的にも少し余裕ができ、安心して学業に専念できています。

✓これからの学校生活で頑張りたいこと

これからは、臨地実習や定期テスト、国家試験に向けて着実に知識と技術を積み重ねていきたいです。そのために、勉強や実習など、限られた時間を計画的に使い、目標とする看護師に近づけられるよう努力していきます。



写真で
交流しよう♪



エッグナーズの輪

| 今月のテーマ | 夏の思い出～病院バージョン～

今月は、現場看護師から夏の思い出写真をお届けします♪

★毎年恒例の地域の盆踊りに参加!

東神戸病院では毎年盆踊り大会を開催しています。コロナで4年ほど中止をしていましたが、今年から復活☆病院スタッフや互助組合員さんと一緒に盛り上げます。院長、副院長もはりきってかき氷売っています♪この日は、入院患者さんも「お散歩!」と言って盆踊りに参加します。準備は大変だけど、患者さんの笑顔を見るとまた来年も...と思う私たちです(^^)(東神戸病院)



★夏の研修in広島

広島で平和学習研修に参加しました。今回の平和学習研修を通して、平和の尊さを改めて実感しました。戦争体験者の方々の話を聞いて、日常の当たり前がどれほど貴重かを考えさせられました。学んだことを心に留め、日々の行動に生かしていきたいです。(神戸協同病院)



★ありがとう! ボランティアさん

8月25日、26日、30日に病棟の夏まつりを開催し、ボランティアさんも連日協力をしてくれました! 患者さんの誘導、ゲームコーナーで盛り上げていただき、ありがとうございました。(尼崎医療生協病院)



★歌って踊って♪

共立病院では8/28に夏祭りを行いました!! みんなで懐かしい歌を歌ったり踊ったり、おいしいゼリーを食べて、患者さんも職員も楽しく過ごしました。多職種そろって連携し、素敵な夏祭りとなりました。イベント委員会のメンバーは早速、次のイベントに向けて動き出しています!!(共立病院)

夏の思い出～病院バージョン～はいかがだったでしょうか?ぜひ学生のみなさんも、近況やきり看護学生を読んでの感想など、どしどしお寄せください! 読者の声にコメントいただいた方に、抽選で5名の方に図書カードをプレゼント♪たくさんの投稿をお待ちしています!



読者の声は
こちらから!

阪神・淡路大震災から30年 私たちにできること

兵庫県内の看護奨学生と職員が
35名集まり交流会を行いました。
災害が起こったとき、
私たちにできることは何なのか、
学生と職員一緒に話し合いました。



学習企画

あれから30年～震災を振り返る～
講師:東神戸病院 遠山 治彦 院長



幼少期からよく聞く震災の話ですが、今後医療従事者となる上で、改めて聞くと医療従事者としてどうすべきか、もう一度考え直すきっかけとなりました。

避難所があまり進歩していないようで、震災関連死も多くいる状態なので、もっとプライバシーなどに配慮した避難所が大切ではないのかなと感じました。

自分が知らないことはまだまだあると再確認でき、資格を持たない看護学生が震災時に何ができるかを知ることができたので活かしていきたいと思いました。

震災を体験した医療者からお話を聞く機会は初めてでした。劣悪な環境の中、日本人の助け合いの心で、色々な困難を乗り越えてきたことを改めて実感しました。

看護学生にできることは、環境整備をして感染対策を徹底すること、被災者に寄り添いコミュニケーションを取ること、という意見が出て、看護学生にもできることはあるんだなと勉強になりました。



後半は、全員でフルーツバスケットを行い、学生も職員も大はしゃぎで、交流会を楽しむことができました。法人を越えて、縦と横の絆が深まりました★

法人対抗、
人間知恵の輪!



資料請求
はこちら



あなたも奨学生になりませんか？

尼崎医療生協病院・東神戸病院・神戸協同病院・
共立病院で奨学生を募集しています。

初めての交流会だったので、はじめは緊張していましたが、先輩方が気さくに声をかけて下さり、楽しむことができました。

奨学生との顔合わせをし、就職前に横のつながりができたことはとても嬉しいです！

兵庫民医連・
看護部
インスタグラム



看護師さんのこと、病院の日常、その他さまざまな高校生&看護学生向けの企画の紹介をしていきます★ぜひフォローしてね♪